



統計 (Statistics) という言葉ほど地味な感じを与えるものはない。統計と聞いて多くの方は、すぐに嫌悪?してしまうのが常であります。そのために統計関係者は、今でも旧態依然として[縁の下]に終つてしまうことが多い。しかし考えようによつては、それでよいのかも知りませんが、毎日殺風景な部屋で黙々として算盤、や計算機と取組んでいる人たちの将来を考えて見れば、いささか心が曇つて参ります。実はこれらの人たちこそ、あらゆる行政施策の基礎資料を作つている陰の功労者なのであります。ややもすれば、社会から軽視されやすいこれらの人たちの仕事を尊重し、花々しい行政舞台へ押し上げてやらなければならないと思います。

社会、経済制度の著しく発展した近代国家において、今や調査統計事業は大きな役割をになつて居るのです。そのために県や国においては、変転極まりない社会、経済事情を科学的に分析して、最も有効適切な施策を講じなければならぬのであります。それにはどうしても、複雑な社会、経済の諸事情を、具体的な統計数字として、は握ることが必要であります。若しもこれができないときには、行当り、場当り式のお座なり政治になってしまうことでありましょう。それでは国民多数の幸福を招来することは、到底困難であります。

そもそも統計の学術的意義は『特定の経験的な標識(同質同量)を共通に有する同種個体(単位)の集合体を統計集団といい、この統計集団をあらわす数を統計という』のであります。これではいかにも私たちが、はるかに縁遠い夢の国の言葉のように聞えますが、実は私たちの住んでいる村や町、県や国の状態と、その動きなどを解りやすい数字で、いろいろと表現したものが統計なのであります。すなわち統計は私たちの生活と常に深く結びついており、真実の統計はあくまでも私たちの生活経験の中から生れてくるのであります。

人は細かい数字の羅列された統計表を見ただけでも、眼がチラチラして、頭のしんが痛み出すとか、メガネがズレ落ちてしまうなどというかも知れません。ち密な計数的感覚は、チョットやソツトで到底会得できるものではありません。少しづつでも毎日の生活体験から、数字を書入れたり、あるいは計算して見たりして、先づ数字に慣れることが大切であります。たとえば各家庭において家計簿や献立表を利用したり、あるいは鶏の産卵数や農作物の収穫量、供出量、生産費などを手ママに記録して見ることで、そして数字に慣れて来たならば毎月、毎年の支出や収入の結果をまとめて見ることで、そうすれば自然に統計表ができて上るわけがあります。更にその結果を検討して、来月、来年の合理的プランを立てて見るようにすれば、だんだん興味も湧いて、その他の統計についても、おのづと関心を持つようになると思います。ただその際に注意しなければならぬことは、第一に毎日の数字を辛抱強く記録する習慣をつけることで、第二は数字を直したり、小細工を加えたりしないことであります。統計にはあくまでも生のままの数字を最後まで取扱うことが肝要であります。

統計の価値は『あくまでも真実にして、しかも正確に表現する』ことにあるのはいうまでもありません。その正確さと真実さを少しでも失わないようにすることが、

統計を作る人の最も大切な心構えであります。

たまたま統計を作る人の社会分析が不明確なために、往々数字の誤りを生ずることがありますが、俗にこれを統計のうそといつております。又調査票への記入違いや、記入漏れは統計の誤びゆうとなつて現われることとなります。すなわちうそや誤りの含まれている統計数字は、その価値の大半を失つており、折角の努力や経費もすべて水泡に帰してしまふことになるのです。更にそれがそのまま行政施策の資料に使用されたならば、それを大変であります。すなわち現実の動きに逆行したり、不適当なデスク・プランとなつたり、全くの盲目政治に終つてしまうことでありましょう。これらの諸点を考えて見ただけでも、統計がいかに重要であるかが直ぐ分ると思います。すなわち政治と私たちの生活を結びつけているものは、統計であるといつても過言ではありません。そのために個人の思惑や推量で統計を作つたり、修正したりすることは絶対に禁物であります。

私たちは自分の家庭の中にある身近な問題を取り上げて、統計数字を作り、その1ヶ月、あるいは1ヶ年などの結果をまとめて見ると共に、その結果を利用して、生活改善や文化の向上を図りたいものであります。又市町村の調査員から依頼されたいろいろの調査に対しては、ぜひ協力して正しい統計を作るために、少しでも貢献しなければならぬと思います。そこにはじめて、統計が私たち人間の幸福と明るい家庭を作り、明るく正しい政治の基礎を生み、そして私たちの村や町、県や国がますます発展できるものであります。特に家庭婦人の方の関心と研究を切望したいものであります。世の中にはよく家計のやりくりや、家庭経済の切廻しの大変上手な人と下手な人がいるといわれていますが、それは偶然の事ではありません。これには環境の良悪や、個人の性格、趣味などもある程度影響するものと思われませんが、実際はその家庭における金銭や、物品などの出し入れ及び使用量などを常に明確にしているかないかの違いであります。たとえば借金で首の廻らない者が、電気洗濯機や冷蔵庫、テレビなどを到底買うことはできません。たとえ月賦で買うにしても、月々の家計のバランスが取れていなければならぬ筈です。私たちはどうしても収入と支出を明確にして、新しい生活設計を立てる必要が生れて来ることとなります。すなわち何事にも計画性を持たせて、なるべく赤字を出さないように努力しているか、いないかの違いが各自の家庭経済の上に大きい影響を与えることはもち論、更にこれが国家経済の発展のためにも、多大の影響を与えることになるのであります。わが国においても、昔から大福帳や備忘録などを利用して、金銭及び物品の出し入れなどを書き入れたところもありましたが、それは極く一部の人たちにとどまつてしまつたようです。

最近新生活運動や生活改善の事業が全国的に推進されておりますが、その目的達成のためには、あくまでも各家庭における生活設計の科学化と、家庭経済の改善向上を図ることが先決問題のように思われます。そのためには先づ青年、婦人団体の活動や、学校の統計教育などを通じて、ますます統計思想の普及と統計技術の向上を図らなければならないと思います。

ここに統計と家庭生活の関係について、いささか愚見(26頁へ続く)